

EDITORIAL COLUMN

社説

戦後の混乱期に日本国憲法の草案作成に携わり、連合国軍総司令部(GHQ)と渡り合った白洲次郎が、山形市蔵王温泉スキー場に所有していた山荘「ヒュッテ・ヤレン」を復元・保存し、観光資源として役立てようという動きがある。スキー客が減少する中、四季を通じた蔵王の魅力アップを考える契機としたい。白洲次郎は終戦直後、吉田茂元首相の側近として憲法改正、サンフランシスコ平和条約締結で活躍し、「従順ならざる唯一の日本人」と言われた。マッカーサーを叱りつけたというエピソードもある。貿易庁の初代長官となり、商工省を改組して通商産業省を設立した。1951(昭和26)〜59年には東北電力の初代会長を務め、蔵王が気に入って山荘を建てたという。白洲次郎ゆかりの山荘を観光に生かそうと、地元関係者ら

蔵王・旧白洲山荘の保存運動

が2006年に「白洲次郎を語る山形の会」を結成。蔵王温泉観光協会は昨年、山荘敷地内に説明看板を立てた。老朽化が進む山荘の復元に動いているのは東京のNPO法人「元氣・まちネッ ト」(矢口正武代表理事)・戸沢村出身。矢口さんと仲間の建築家らが建物を調査し、今月、蔵王で「旧白洲次郎山荘と蔵

王を語るミニフォーラム」を開いた。山荘は木造2階建てで2階にカウチター ー付きの台所兼居間、1階に小さな寝室 3部屋などがある。創建当時は1階が仕 切られておらず、暖炉のあるリビングに なっていたことが分かった。外気を入れ て冷やす天然の冷蔵庫や、雨戸と2重の ガラス窓による寒さ対策など独特の仕様

通年観光考える契機に

も確認。フォーラムでは、矢口さんが内 部の一般公開の有無によって3段階の改 修プランを示し、保存・活用に向けた募 金活動を始める」と語った。現在の山荘所有者で、東京でスポーツ クラブを経営する三宅泉さん(53)もフォー ラムに出席し、「長く山形の財産とし て残ってくれたらと思っている」と話し

た。日本で初めて民間のスポーツクラブ を立ち上げた三宅さんの父・馨さんが、 スキー教室の子ともたちを泊めるために 取得したが、蔵王に別のロッジを建てて からあまり使わなくなったという。フォーラムの参加者からは「蔵王がさ らに発展するには温泉の魅力を見直さな ければならない。通年型の素朴な温泉場

の中に旧白洲山荘が残っていれば散策も より楽しくなる」「紅葉を眺めながらお 茶が飲めるなど周りの環境を生かし、そ こから蔵王温泉全体の景観づくりに広げ てはどうか」といった意見が出た。蔵王のスキー客は20年前のピーク時に 年間150万人を超えていたが、スキー 離れや景気低迷で減少が著しく、昨年度 は40万1400人。同温泉観光協会は蔵 王温泉こまくさツアーチームを毎年開 催し、昨年は開湯1900年に合わせて イベントを展開するなどスキーシーズン 以外の誘客にも力を入れている。蔵王温泉は県内最多の約8800人が 宿泊でき、強酸性の泉質はインパクトが あって湯量も豊富だ。雄大で多様な自然 に包まれたロケーションに加え、これま でスキーの陰に隠れていた歴史的な資産 も多いという。旧白洲山荘の保存をめぐ る動きが、蔵王の新たな魅力を引き出す 起爆剤になることを期待したい。